



山乗溪谷の雪上スノーシュー探検

2月4日と5日、市内の観光関係者で構成する真庭市観光戦略会議ワーキンググループが初めて企画した、真庭のブランドコンセプト「たった100万年のおくりもの」を体感するモニターツアーが開かれ、県内外から25人が参加しました。ツアーは北房ぶり市、ひるぜん雪恋まつり、山乗溪谷での雪上スノーシュー探検といった各地域での「体験」や、地域住民との「交流」を重視した内容で、参加者は真庭市の人や歴史、自然を肌で感じ、真庭の冬の魅力を感じました。

## 100万年のおくりものモニターツアー 「体験」と「交流」で真庭を感じて



北房ぶり市会場で地酒の試飲



湯原温泉街を早朝ウォーキング

2月5日、落合総合センターで、真庭市と新庄村の中学生による「私の主張発表会」が開かれました。この発表会は、中学生に自分を見つめ社会の一員としての自覚を高めてもらうことなどを目的に、県青少年育成県民会議真庭支部などが毎年開催。7校から選ばれた1、2年生15人は、命の尊さや将来の夢などを5分以内で発表しました。会場の生徒や保護者など約350人は、生徒の熱のこもった発表に熱心に聞き入っていました。

### 第35回中学生による私の主張発表会 命の尊さや夢について熱弁



「自分を好きになって」と訴える湯原中学校2年生の藤原海郁奈さん



現地で撮影された動画を見て防災を学ぶ参加者

### みんなで防災in真庭 自主防災の大切さを再認識

2月4日、勝山文化センターで、『みんなで防災in真庭』が開かれ、消防団員や地域自主防災組織の関係者ら合わせて約150人が参加しました。基調講演では、一般社団法人ADI災害研究所の伊永勉理事長が、昨年の九州北部豪雨の災害現場で感じたことや避難所で聞いた市民の声、自主防災の大切さなどについて話され、「大雨などの災害は皆さんの地域でも必ず起こると思つて備えていくください」と呼びかけました。



市政に関する動きの一部を紹介します

## 1/25 SDGsに沿って総合計画を推進

各施策の方向性を定めた「第2次真庭市総合計画」の進捗状況を検証する審議会が開かれました。議事では事務局が総合計画の柱となる主要計画の実施状況などを説明。また国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」を市も推進していくことが承認されました。



## 2/4 こんな図書館あったらいいな

真庭市立中央図書館の開館に向けた市民ワークショップが開かれ、約30人が参加しました。参加者は大学の図書館との相互貸出や市民の特技、能力を活用できる仕組みづくりなど、開館に向けて意見を申し合いました。



## 市長室から こんにちは!

### 政治家野中広務先生

これまでの人生を歩んできて、感謝していることの一つが人との出会いです。友人との出会いも大切ですが、多数の先達から薫陶を受けて育てて貰いました。そのお一人が去る1月26日に逝去された野中広務先生であります。

京都府の秘書係長時代からお目に掛かっていたものの、直接面談ができるようになったのは平成に入ってからで、かれこれ30年近く御交誼があったこととなります。市長就任後もこの関係は続き、昨年の選挙時に頂いた檄文のお礼に事務所を訪問したのが最期になりました。

京都府時代、財政課長就任祝いに一席設けて頂いたこと、冬柴元国土交通大臣が逝去した日に事務所に配達された手紙を拝見したこと、沖縄県万国津梁館(サミット会場地)の小淵総理像の前から突然電話を頂いたこと、こんな秘密の事までと驚くような大物政治家の話は何うこともあり。『真実一路 野中広務』との揮毫がある著書を持っていますが、事務所長から「名前は書くが、言葉まで書いたのは君だけ」と告げられたことも鮮明に記憶しています。演説は舌鋒鋭く迫力満点、一方、お会いすると穏やかで優しい方でした。こう書いていると、懐かしい往時の思い出が脳裏に浮かび、目頭が熱くなります。

先生は、「地方自治の人」でした。町議会議員、町長、府議会議員、副知事、衆議院議員というご経歴です。計らずも首長になっている者として、御恩に報いる道は地方自治発展に尽くすこととの決意を御霊に申し上げます。

野中先生、安らかに眠り下さい。



環境問題のほか、地域課題についての意見も交わされました

### 市長と話そう！ 地域の環境意識の醸成を

2月8日、市長と市民が意見を交わす「市長と話そう」が市役所本庁舎で開かれました。今回は、平成19年からクリーンセンターまにわでリユース活動などを行う「リサイクルプラザまにわの会」の14人が参加。「子どもと大人が共に環境について学び、考える場をつくっていくことが、地域の環境意識の醸成につながる」との会の意見に、市長は「意識醸成によりごみ処理コストなどを下げ、住民福祉につなげていきたい」と答えていました。



一般の部にも6人の高校生が参加し意見を交わしました

### 教育を皆で考えるワークショップ 子どもたちは真庭の「未来」

2月13日、「教育を皆で考えるワークショップ」が開かれました。「私たちの未来を考える」をテーマとした勝山文化センターでの高校生部には48人が、その後開催した「これからの時代を生きる子どもたちのために、どんな応援ができるか」をテーマとした市役所本庁舎での一般部には39人が参加。一般部では高校生の部で出た「子どもたちの夢や思いを聞く場が必要」といった意見なども参考に議論が交わされました。